

## 市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されるこ  
とを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	<b>経鼻内視鏡および経口内視鏡を用いたバルサルバ法における咽頭・ 下咽頭視認性の比較試験 —ブラインド化画像評価による単施設・後ろ向き観察研究—</b>
当院の研究責任者	所 属：消化器肝臓病センター・消化器内科 責任者：北村陽子
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<b>研究の背景</b> 食道扁平上皮癌では、咽頭・下咽頭領域に多発癌や異時性二次癌を高率に認め る。そのため、食道癌の高リスク症例においては、上部消化管内視鏡による厳密 な咽頭・下咽頭観察も極めて重要である。 経口高解像度内視鏡(NBI)は浅在性病変の検出能を向上させたが、解剖学的制 約のため、下咽頭(梨状陥凹・輪状後部・後壁)の視認性には限界がある。 一方、経鼻内視鏡は咽頭反射が弱く挿入性に優れるが、バルサルバ法を併用し た下咽頭視認性が経口内視鏡と比較してどうかは不明である。 どちらのアプローチが、二次原発咽頭癌のスクリーニングとしてより適しているか を明らかにすることは臨床的意義が高い。  目的:バルサルバ法施行時における 経鼻内視鏡 vs 経口内視鏡を行いどちら が咽頭観察に有用化を評価する。
調査データの該当期間	2023年4月から2025年12月
本研究の対象及び方法 (使用する試料等)	当院でバルサルバ法を用いて咽頭観察を行った内視鏡画像・臨床データを 後方視的に検討する。
試料・情報の 他の機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	匿名化し個人を同定できないようを行う。

本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
お問い合わせ先	T E L : 0742-24-1251 担当者：消化器肝臓病センター・消化器内科 北村陽子
備 考	